

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	三岳貴彦
子ども学科	准教授
学科以外の兼務職	

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
社会的養護Ⅰ	子ども	1
社会福祉	子ども	1
子ども家庭福祉	子ども	1
施設実習指導	子ども	1
社会的養護Ⅱ	子ども	2
子育て支援	子ども	2
基礎力プログラムⅡ	子ども	2
施設実習	子ども	1

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会		SD 委員会	
研究倫理委員会		地域連携委員会	
危機管理委員会		入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	委員
学生委員会	委員	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	委員	教員資格審査委員会	
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	
教務委員会	委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	担当

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員		WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	担当

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	

期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成を行う
個人の教育理念・目標	・保育士の専門的な知識と技術を習得し、職業倫理が陶冶される保育者を養成する。 ・演習科目では主体的且つ能動的に学習出来るようアクティブラーニングを取り入れ授業作りを工夫する。 ・担当科目が未就学児だけでなく18歳未満の児童を対象とした福祉の問題を取り扱うことから、児童の取り巻く問題と福祉による支援について関心が持てるよう取り組む。

3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	・ルーブリック評価の活用と個別指導 施設実習指導のレポート課題(期末試験ではなく通常授業回の時期に課したレポート)は提出後、添削で赤を入れたものを学生に返却し、併せて学生の記事で良い点、悪い点をそれぞれ伝え、学生の記事力向上を目指す。 ・期末試験評価の開示 社会的養護Ⅰ、社会福祉、子ども家庭福祉では、1年生開講科目であり、学生はそれぞれの分野の専門知識をまず身に付ける事が必要な為、期末試験の結果は成績確定後に開示している。学生一人一人が自分の実際の学力を理解できるよう工夫している。 ・アクティブラーニング 社会的養護Ⅱ、子育て支援では演習科目という事もあり、グループワークでのディスカッション、プレゼンテーションを実施し、主体的な学びにつながる様、工夫する。 ・ゲストスピーカーの活用 社会的養護での里親家庭の支援について、社会福祉法人こばと会の協力を得て、里親支援専門スタッフと里親による講義を開いている。里親支援に関しては実習でも学べない領域の為、里親当事者と支援者による話を直接学生に伝える工夫をしている。
授業以外 （学生支援等）	・レポート等添削指導 主に施設実習指導では、実習施設への提出書類も多いことから、学生に授業時間以外での添削指導を行う。併せて学生の実習等勉強での悩みがあれば話を聴く。

4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	・ルーブリック評価の活用と個別指導 レポートを添削し、返却時に個別指導をしている。教員として気づいた学生の記事作成での課題や文章のクセといった事を個々に話すことができ、学生の困っている部分がわかる事につながったし、実習での日誌作成での助言指導にもつながった。 ・期末試験評価の開示 開示した科目については、学生は実際の点数を見ているので納得せざるを得ないと思う。実際に総合成績について意見が出る事はない。 また、実際にテストを添削すると、色々な傾向がある。「誤字が多くて減点」、「教科書第〇講あたりの設問が全滅(覚えていない領域)」、「覚えた専門用語がうろ覚えだったため、正式名称が書けず間違えた」等。テストの開示の際に学生一人一人の傾向・クセといったものも併せて説明し、「テストの結果」だけを伝えるのではなく、「どうすれば自分がこれから伸びるか」と今後の改善ポイントを話している。 ・アクティブラーニング 授業評価アンケートにも話し合い、協働して課題に取り組む点について好評を受けた。 ・ゲストスピーカーの活用 学生は子どもに関心が注視しがちだが、「親(保護者)の思い」を直接聞くというのは実習でもあまり経験する事はない。講義後にリアクションペーパーを課しているが、学生にとっても当事者の声を直接聴くのは刺激になっているとみられる。
----	--

	また、リアクションペーパーはコピーをこぼと会にも送っている(学生には事前に説明済み)。学生の立場として、職員に直接送る感想文でもあり、文章作成が日頃よりかなり気を付けて文章を記載している事が読み取れる。
授業以外 (学生支援等)	・レポート等添削指導 特に12月に多かったが、施設実習の提出書類の添削指導では、個別面接を通して学生が「言語化できずに文章が書けずに困っている場面」に立ち会う事もあり、個々に助言指導した。かわりの中で学生の中には日常生活の中でも言語化できない事で「周囲に伝える事が出来ない」「伝えられない(表現できない)ので自分の中で我慢する」といった生い立ち・人間関係を垣間見る事はあり個別指導時に助言する事もあった。

5. 目標（今後どうするか）

授業	・社会的養護Ⅱ、子育て支援でのアクティブラーニングは継続し、より良い演習課題を設定できる様、取り組む。
授業以外 (学生支援等)	・課題の個別指導を通して、学生とのコミュニケーションを継続する。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

ガバナンス	・教務委員長となり、教務課との「報連相」を含めたコミュニケーションを密にし、大学での円滑な教務事務運営につながる様、取り組んだ。
担当業務	・小児救急法講習では、6月の開催に合わせ運営に従事した。 ・実習事務では、学科内だけでなく各実習施設ともコミュニケーションを図ってきた。今年度は施設実習の期間中に積雪による実習日程の変更等があり、全実習施設と電話連絡を取りながら変更等の対応をとり、円滑に進む様、実習を全うした。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和6(2024)年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上